

富士の民話 あれこれ

さかさ杉



大淵の井上（曾比奈）に「さかさ杉」と呼ばれる大きな杉の木があります。この木は、幹が途中から六つに分かれており、枝が伸びる姿など、まるで杉の木が逆に生えているように見えます。今回は、「さかさ杉」の近くにお住まいの服部源一郎さんから、お話を伺いました。

昔、大淵村の井上に、貧しいながらも仲のよい百姓夫婦が住んでいました。しかし、二人には子供がいなかったので、氏神様に毎晩お参りして、「どうか子供を授けてください」と祈ったところ、間もなく体の大きい元気な男の子が生まれました。夫婦はとても喜び、この子を大事に育てました。

男の子は大きく成長し、力も強くなり、やがて「小生川」という相撲取りになりました。小生川はどんどん強くなって出世したので、貧しかった夫婦の暮らしは、とても楽になりました。ところが、息子のおかげで豊かになった夫婦を、村人たちは、ねたんだり、うらやんだりしていました。そんなある日、小生川は突然病気で倒れ、夫婦の看病のいかにもなく息を引き取りました。やがて、夫婦の暮らしは苦しくなりましたが、だれも助けしてくれる者はなく、二人は哀れな最期を遂げました。

それから何年かして、村に災難が続ききました。村人たちが氏神様にお祈りしたところ、「人をねたみ、うらやみ、見殺しにした、たたりだ」という声が聞こえました。そこで夫婦の家の前に塔婆を逆に立て、村中で供養したら災難はおさまったということでした。その後、この塔婆が根づいて、大きな杉の木になり、その変わった姿から「さかさ杉」と呼ばれるようになりました。

私が聞いた「さかさ杉」の話は、もう一つあって、それは、「群馬県の方からウツギという木を買いにきた人が、急病で亡くなってしまい、村人が杉の塔婆を逆に立てて供養したら、根づいて大きな木になった」というものなんです。だから、このあたりでは「ウツギじいさんの木」と呼ぶ人もいますよ。

また、この木の周りは、大きな杉が多いので、前の坂道は「大杉やぶの坂」と呼ばれているんです。



服部源一郎さん(八王子本町)

こちら編集室

「おぎゃあ、おぎゃあ」分べんから電話があった。「赤ちゃんの室から聞こえる赤ちゃんの鳴き声。心音が低下しています。帝王切開「頑張ったね」と涙ぐみ妻の手を握の緊急手術を行いたいのですが…」る夫。ニコリと笑顔でこたえる妻。 ガーン！こんなとき男はオロオロするばかり。結局、無事女の子が生まれ、母子ともに健康と聞き現実はそのほど甘くなかった。 一安心。ふがいない父親にならな予定日を3日ほど過ぎたある日、いよう頑張らなくっちゃ！（ヤイツァ）妻が受診している産婦人科の先生

人口 232,804人
男 116,121人 女 116,683人
世帯 73,292世帯 (5月1日現在)
発行・編集 富士市総務部広報広聴課
富士市永田町1-100 ☎51-0123

